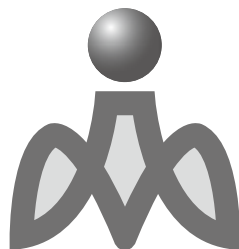


山 梨 県

商工会地区

# 中小企業景況調査報告書

〔令和5年4月～6月実績〕  
〔令和5年7月～9月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会



# 目 次

I 調 査 要 領 .....	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観 .....	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観 .....	3
(2) 主な項目で見る業況 .....	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観 .....	6
(2) 主な項目で見る業況 .....	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観 .....	9
(2) 主な項目で見る業況 .....	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観 .....	12
(2) 主な項目で見る業況 .....	12



## 【I】 調 査 要 領

### 1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

### 2. 調査対象期間

第1四半期 令和5年4月～6月期 「調査時点：令和5年6月1日」

### 3. 調 査 方 法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

### 4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービス業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韮 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	53	165

### 5. そ の 他

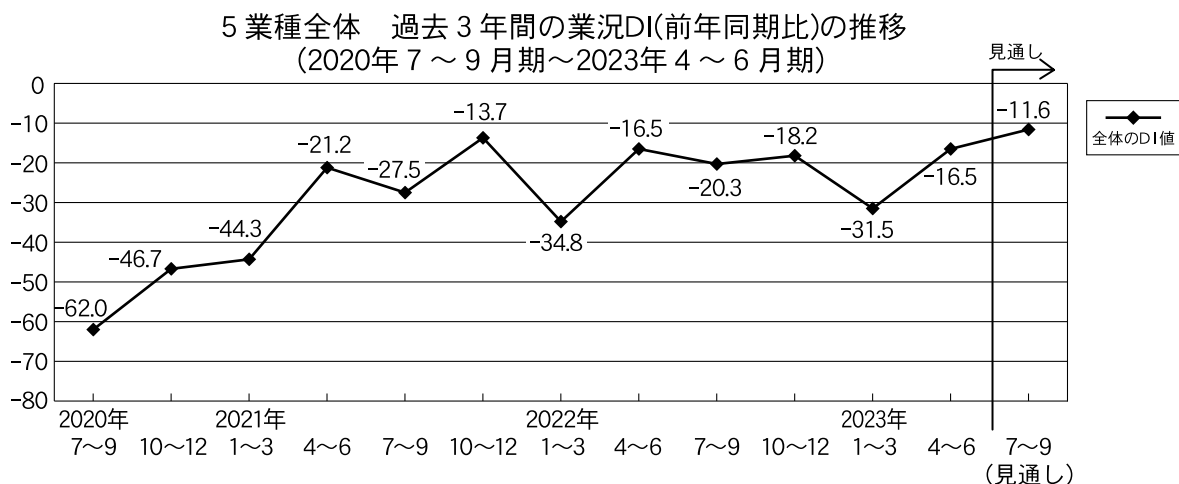
本報告書のDIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

## 【Ⅱ】 景 況

### 1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断D I、及び、産業別の業況判断D Iについてみる。

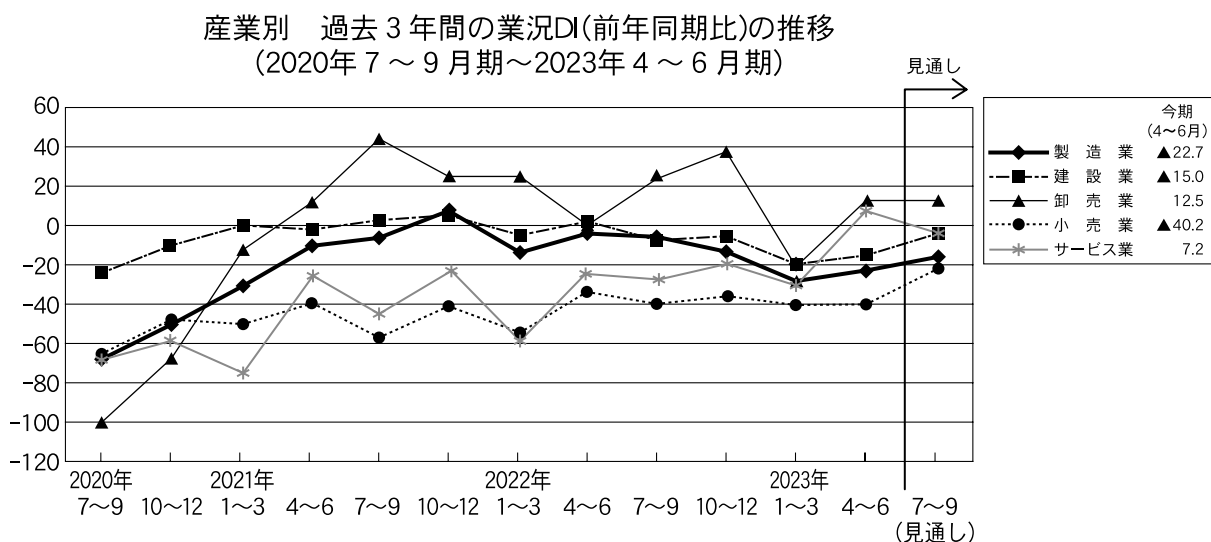
まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断D Iである。今期の業況判断D Iは、▲16.5と前期比で15.0ポイント改善している。来期についても▲11.6へと改善の見通しである。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断D Iである。

全産業の業況判断が前期より改善、とりわけ卸売業、サービス業が大幅に改善した。製造業は▲22.7で前期比+6.3ポイント、建設業が▲15.0で前期比+5.5ポイント、卸売業が12.5で前期比+37.5ポイント、小売業が▲40.2で前期比+0.7ポイント、サービス業が7.2で前期比37.8ポイントであった。

来期は、サービス業が▲10.8ポイントの悪化見通し、卸売業は今期同水準の見通しだが、製造業、建設業、小売業は今期業況判断より改善の見通しとなっている。



**【注記】** 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域等からの120企業を含めた285サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況D Iについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

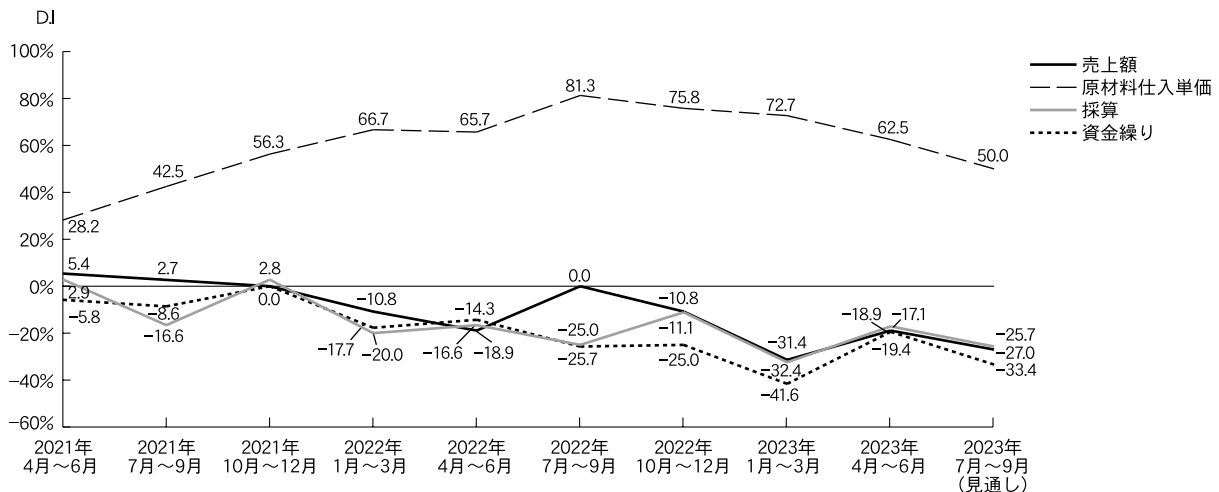
## 2. 製造業の動向

### (1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲18.9と前期比で13.5ポイント改善したが、来期は▲27.0へと悪化の見通し。原材料仕入単価D Iは、今期62.5と前期比で10.2ポイント下降（改善）し、来期はさらに50.0へと下降（改善）の見通し。採算D Iは、今期▲19.4と前期比で22.2ポイント改善したが、来期は▲33.4へ悪化の見通し。資金繰りD Iも、今期▲17.1と前期比で14.3ポイント改善したが、来期は▲25.7に悪化の見通しである。

今期は全D Iが改善であった。来期は原材料仕入単価D Iが引き続き改善の見通しであるものの、残る全てのD Iは悪化の見通しとなっている。

山梨県 製造業 主要景況項目の推移－前年同期比－



### (2) 主な項目でみる業況

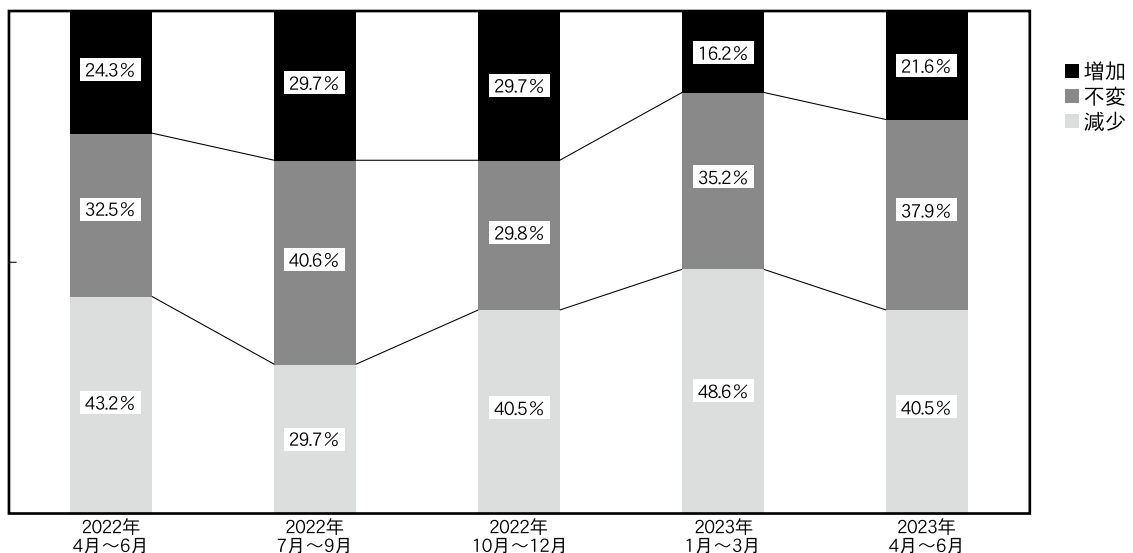
#### ① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数37社））

「増加」と答えた企業の割合は、21.6%（8社）と増加（前期比+2社）している。

「不変」は37.9%（14社）と増加（前期比+1社）、

「減少」は40.5%（15社）と減少（前期比▲3社）している。

山梨県 製造業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D I の内容（回答企業数36社））

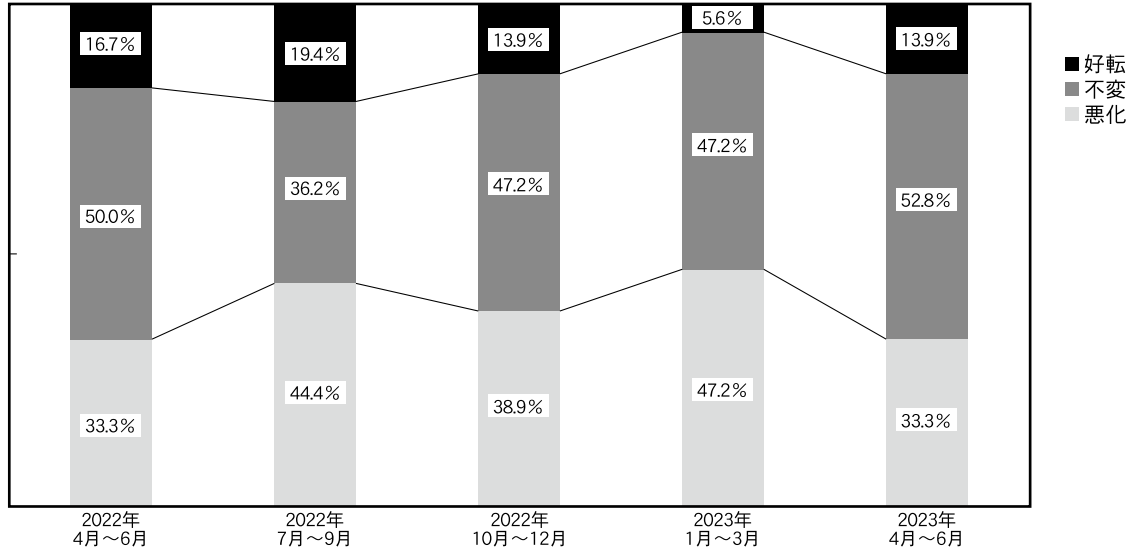
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、13.9%（5社）と増加（前期比+3社）している。

「不変」は52.8%（19社）と増加（前期比+2社）、

「悪化」は33.3%（12社）と減少（前期比▲5社）している。

山梨県 製造業 採算の状況－前年同期比－

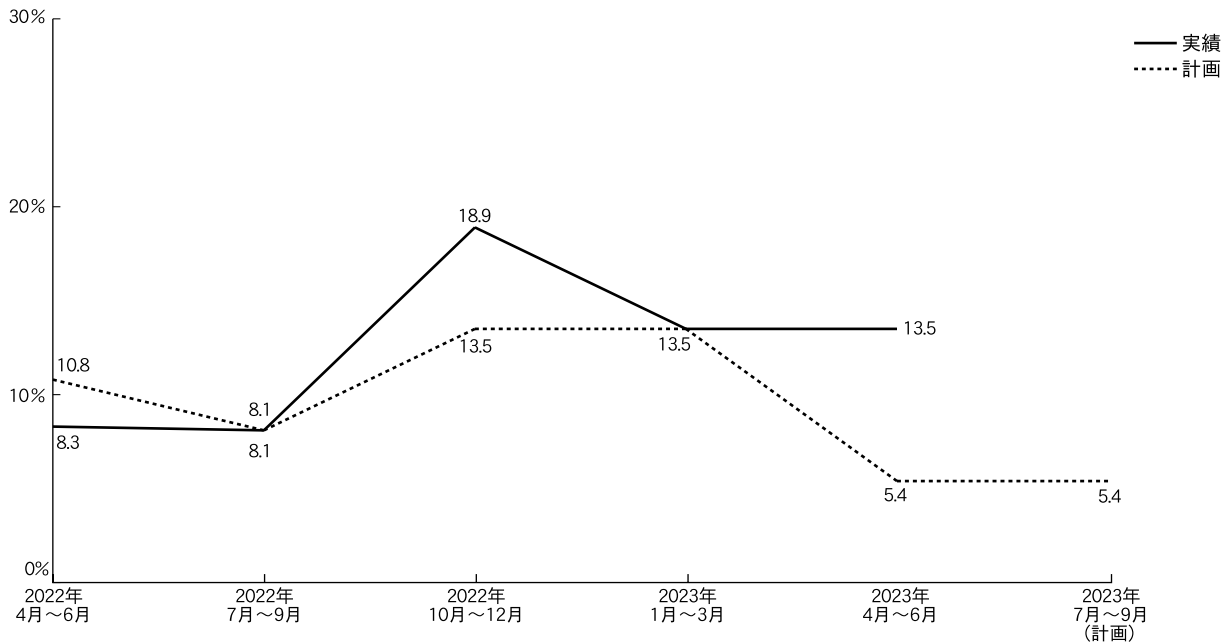


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数36社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は13.5%（5社）であった。その設備投資の内容は、「生産設備」「車両・運搬具」が2件ずつ、「OA機器」が1件であった。

来期の計画については、5.4%（2社）の企業が予定している。その設備投資の内容は「生産設備」が2件である。

山梨県 製造業 設備投資の状況





④ 経営上の問題点（回答企業数36社）

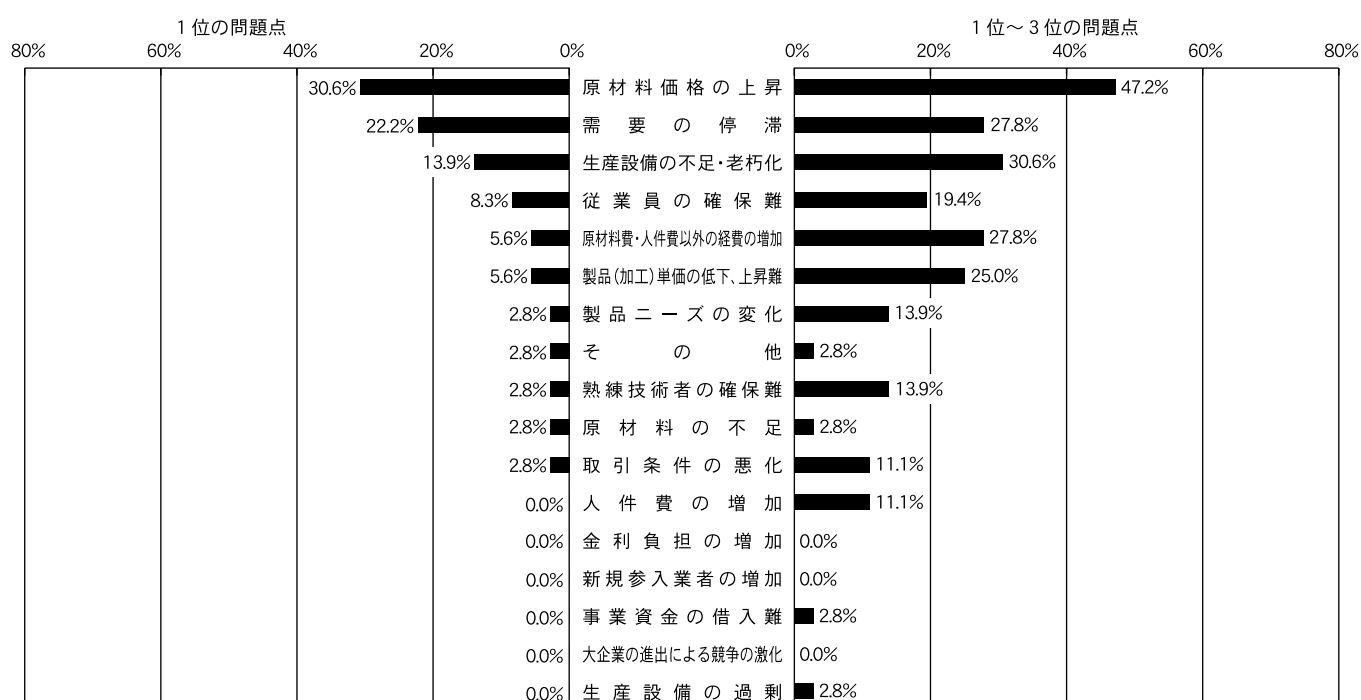
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「原材料価格の上昇」の30.6%（11社）であり、2番目は「需要の停滞」の22.2%（8社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「原材料価格の上昇」の47.2%（17社）であり、2番目に多かったのは「生産設備の不足・老朽化」の30.6%（11社）であった。

山梨県 製造業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	4	10.8
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.7
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	4	10.8
金属製品製造業	3	8.1
一般機械器具製造業	13	35.1
電気機械器具製造業	3	8.1
精密機械器具製造業	1	2.7
その他製造業	4	10.8
合計	37	100.0

従業員規模別

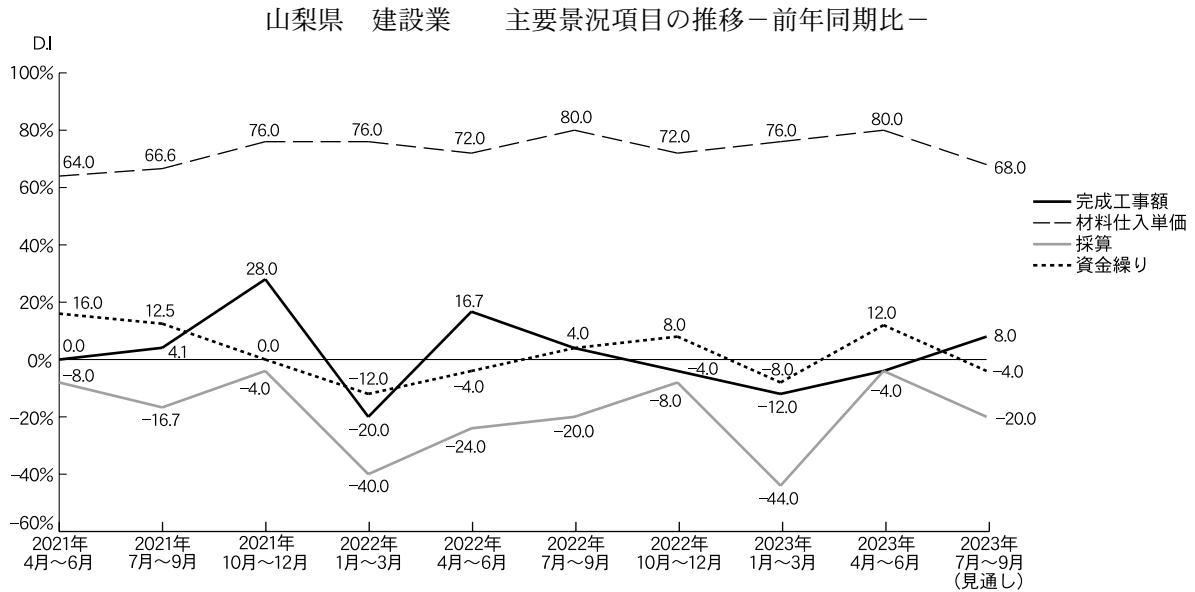
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	18	48.6	15	40.5
3人～5人以下	9	24.3	7	18.9
6人～10人以下	7	18.9	11	29.7
11人～20人以下	3	8.1	4	10.8
合計	37	100.0	37	100.0

### 3. 建設業の動向

#### (1) 景況概観

完成工事額DIは、今期12.0と前期比で20.0ポイント改善したが、来期は▲4.0へ悪化の見通し。材料仕入単価DIは、今期80.0と前期比で4.0ポイント上昇(悪化)したが、来期は68.0に下降(改善)の見通しである。採算DIは、今期▲4.0と前期比40.0ポイントの大幅改善を示したが、来期は▲20.0へ悪化の見通し。資金繰りDIは、今期▲4.0と前期比8.0ポイント改善し、来期もさらに8.0へ改善の見通しである。

今期は材料仕入単価DIの悪化以外は、全てのDIが改善となった。来期は完成工事額DIと採算DIが悪化の見通しで、材料仕入単価DIと資金繰りDIが改善の見通しである。



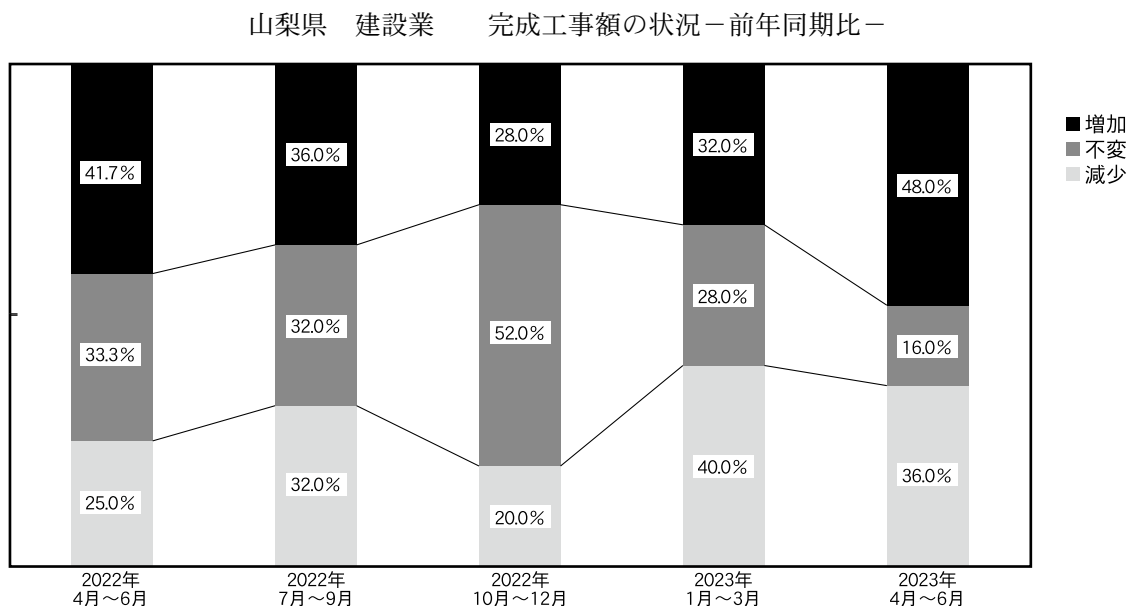
#### (2) 主な項目で見る業況

##### ① 完成工事額 (完成工事額DIの内容 (回答企業数25社))

「増加」と答えた企業の割合は、48.0% (12社)と増加(前期比+4社)している。

「不変」は16.0% (4社)と減少(前期比▲3社)、

「減少」は36.0% (9社)と減少(前期比▲1社)している。



② 採算（採算D I の内容（回答企業数25社））

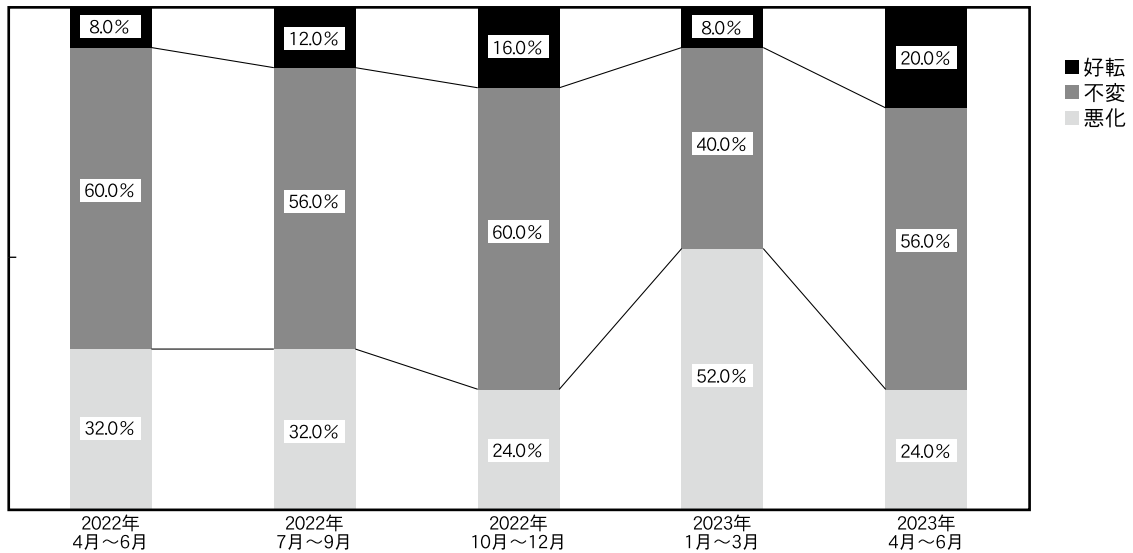
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、20.0%（2社）と増加（前期比+3社）している。

「不変」は56.0%（10社）と増加（前期比+4社）、

「悪化」は24.0%（13社）と減少（前期比▲7社）している。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－

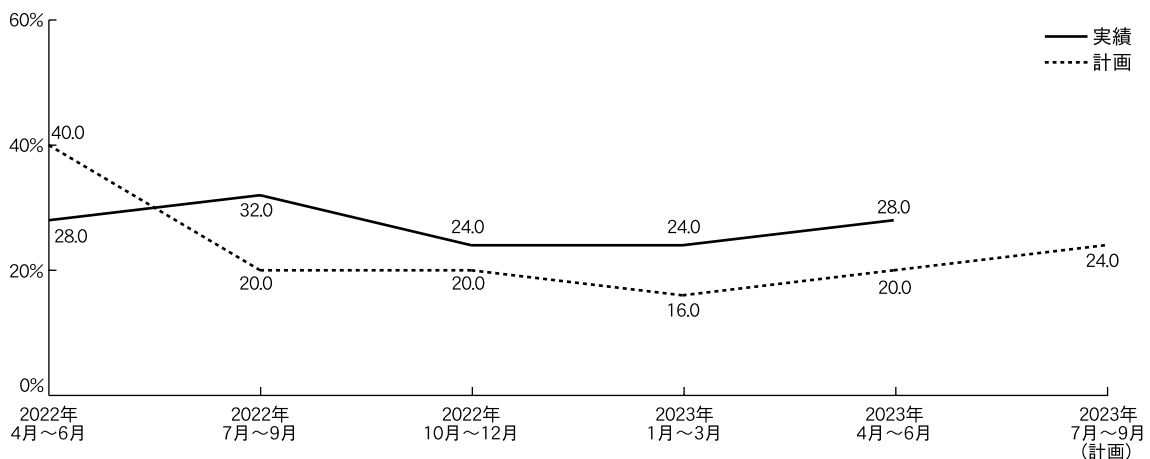


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は28.0%（7社）であった。その設備投資の内容は、「建設機械」「その他」が2件ずつ、「土地」「車両・運搬具」「OA機器」が1件ずつであった。

来期の計画については、24.0%（6社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「土地」が3件、「建物」「車両・運搬具」「OA機器」が2件ずつ、「建設機械」「その他」が1件ずつになる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数25社）

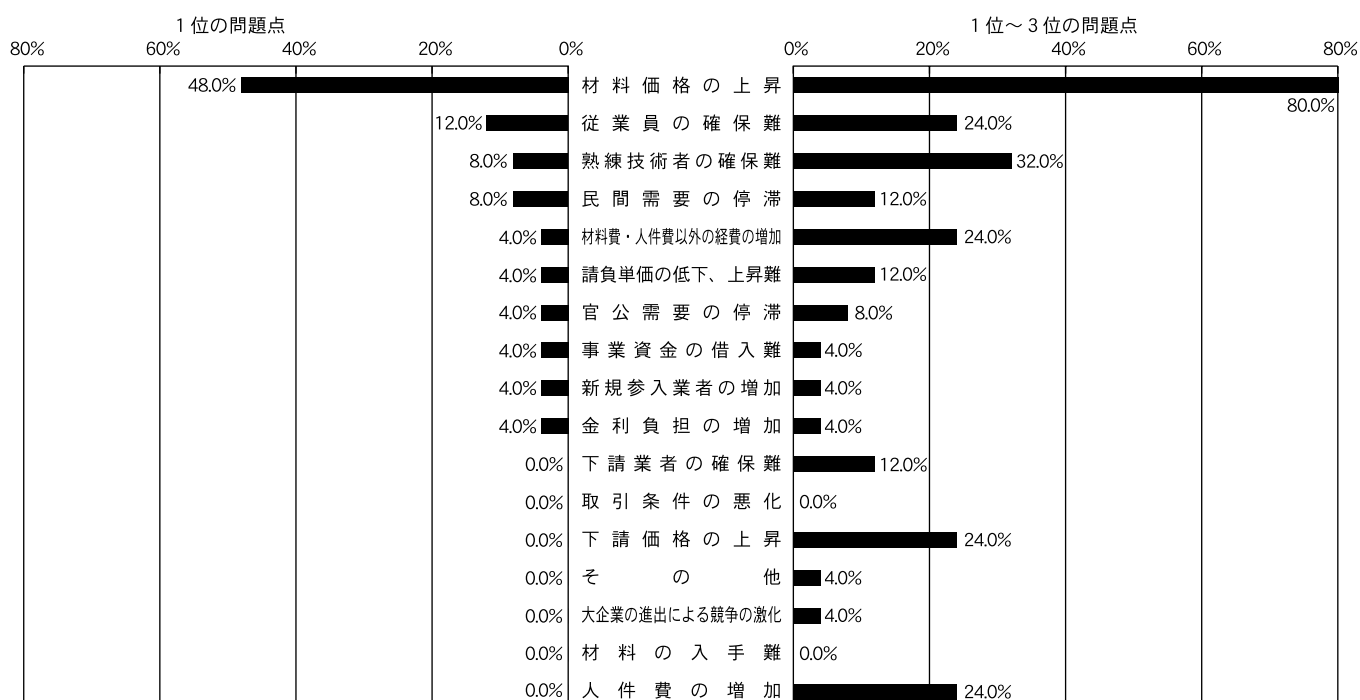
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

前回調査に引き続き「材料価格の上昇」が抜きん出て挙げられており48.0%（12社）であった。2番目に多かったのは「従業員の確保難」の12.0%（3社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも「材料価格の上昇」が前回以上に挙げられており80.0%（20社）であった。2番目に多かったのは「熟練技術者の確保難」の32.0%（8社）であった。

山梨県 建設業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	19	76.0
職別工事業	3	12.0
設備工事業	3	12.0
合計	25	100.0

従業員規模別

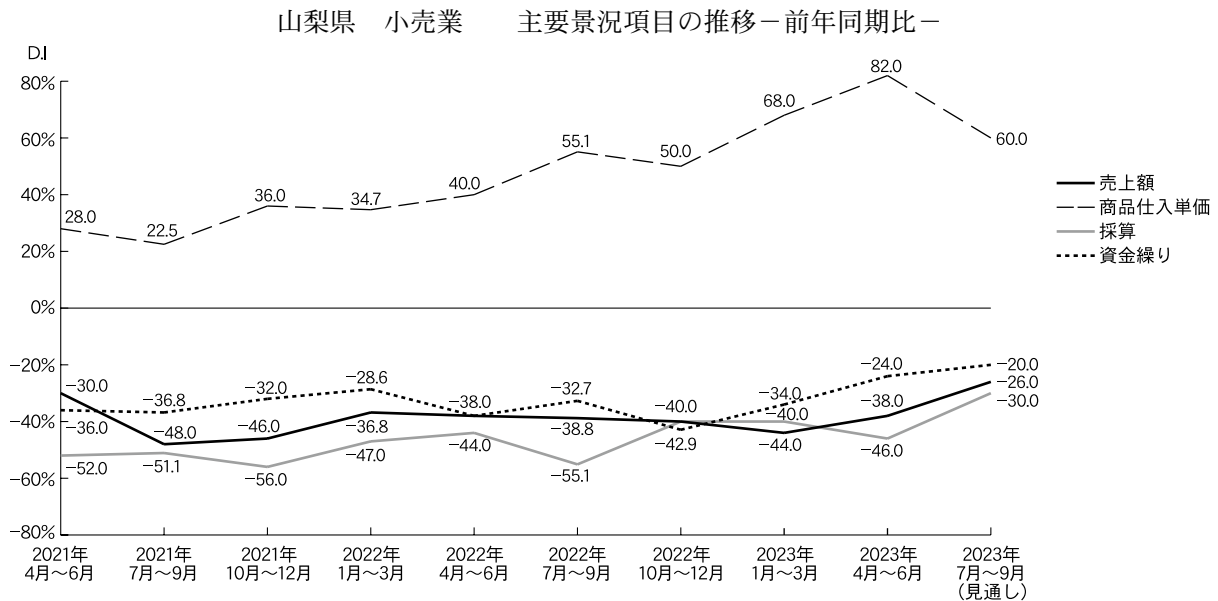
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い		企業数(社)	構成比(%)
2人以下	9	36.0	8	32.0
3人～5人以下	5	20.0	6	24.0
6人～10人以下	5	20.0	5	20.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
21人～50人以下	1	4.0	1	4.0
合計	25	100.0	25	100.0

## 4. 小売業の動向

### (1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲38.0と前期比で6.0ポイント改善し、来期も▲26.0へ改善の見通し。商品仕入単価D Iは、今期82.0と前期比で14.0ポイント上昇（悪化）したが、来期は60.0へと下降（改善）の見通し。採算D Iは、今期▲46.0と前期比で6.0ポイント悪化したが、来期は▲30.0へ改善の見通し。資金繰りD Iは、今期▲24.0と前期比で10.0ポイント改善し、来期も▲20.0へ改善の見通しである。

今期は売上額D I、資金繰りD Iが改善し、商品仕入単価D Iと採算D Iが悪化している。来期は全てのD Iが改善の見通しである。



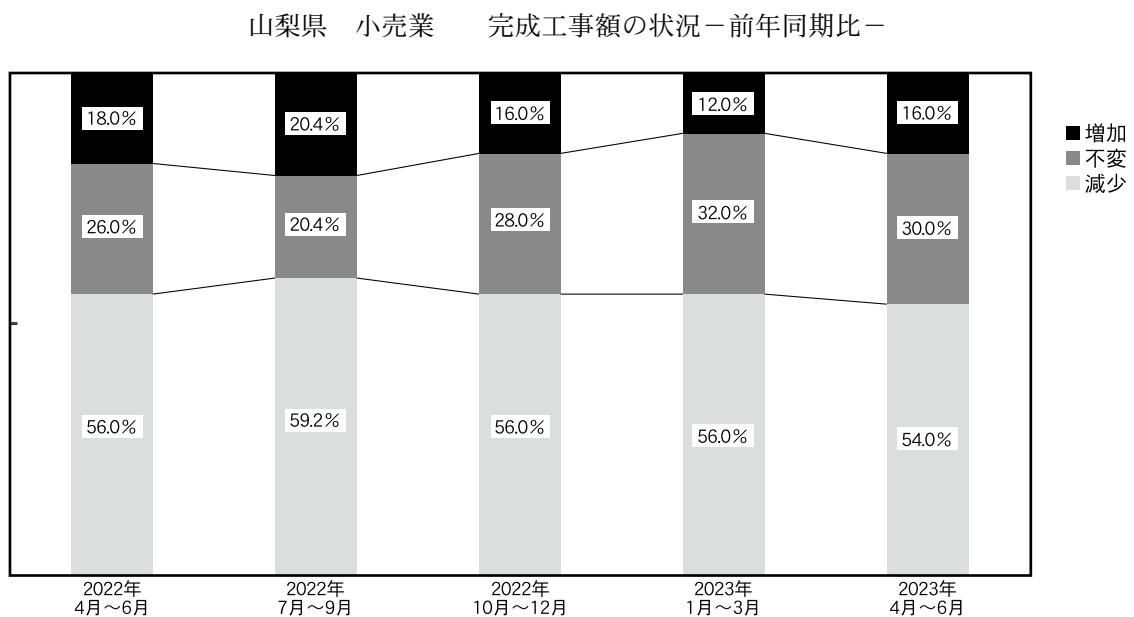
### (2) 主な項目でみる業況

#### ① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数50社））

「増加」と答えた企業の割合は、16.0%（8社）と増加（前期比+2社）している。

「不変」は30.0%（15社）と減少（前期比▲1社）、

「減少」は54.0%（27社）と減少（前期比▲1社）している。



② 採算（採算D I の内容（回答企業数50社））

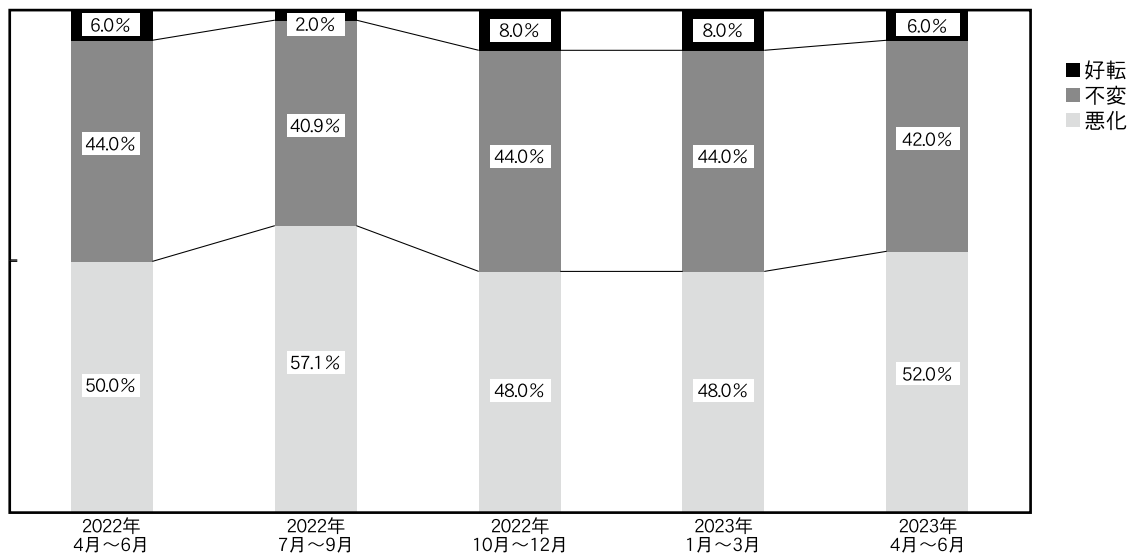
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、6.0%（3社）と減少（前期比▲1社）している。

「不変」は42.0%（21社）と減少（前期比▲1社）、

「悪化」は52.0%（26社）と増加（前期比+2社）している。

山梨県 小売業 採算の状況－前年同期比－

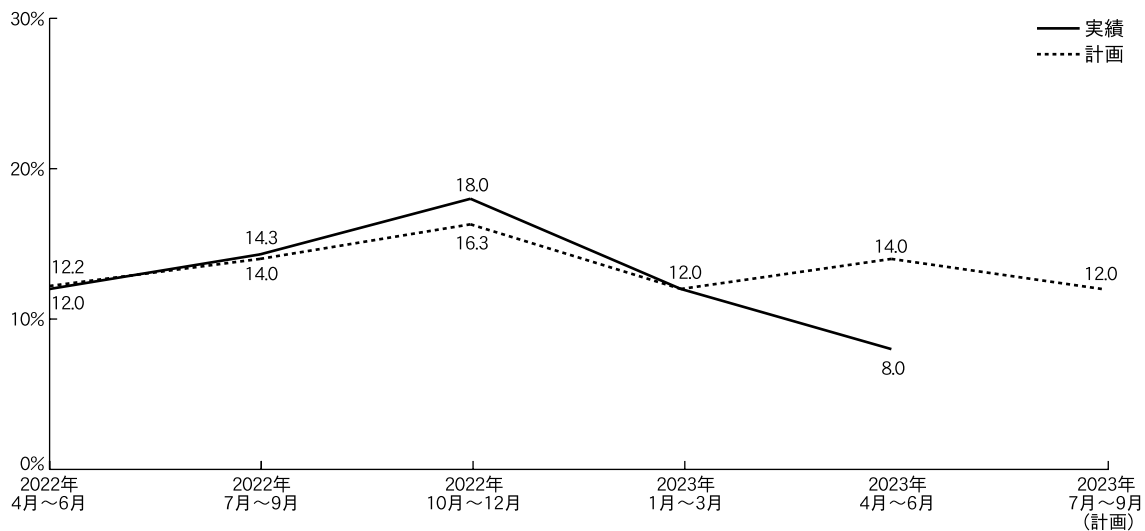


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数50社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は8.0%（4社）であった。その設備投資の内容は、「販売設備」「車両・運搬具」が2件ずつ、「付帯施設」が1件であった。

来期の計画については、12.0%（6社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「店舗」が3件、「車両・運搬具」「その他」が2件ずつ、「販売設備」が1件になる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

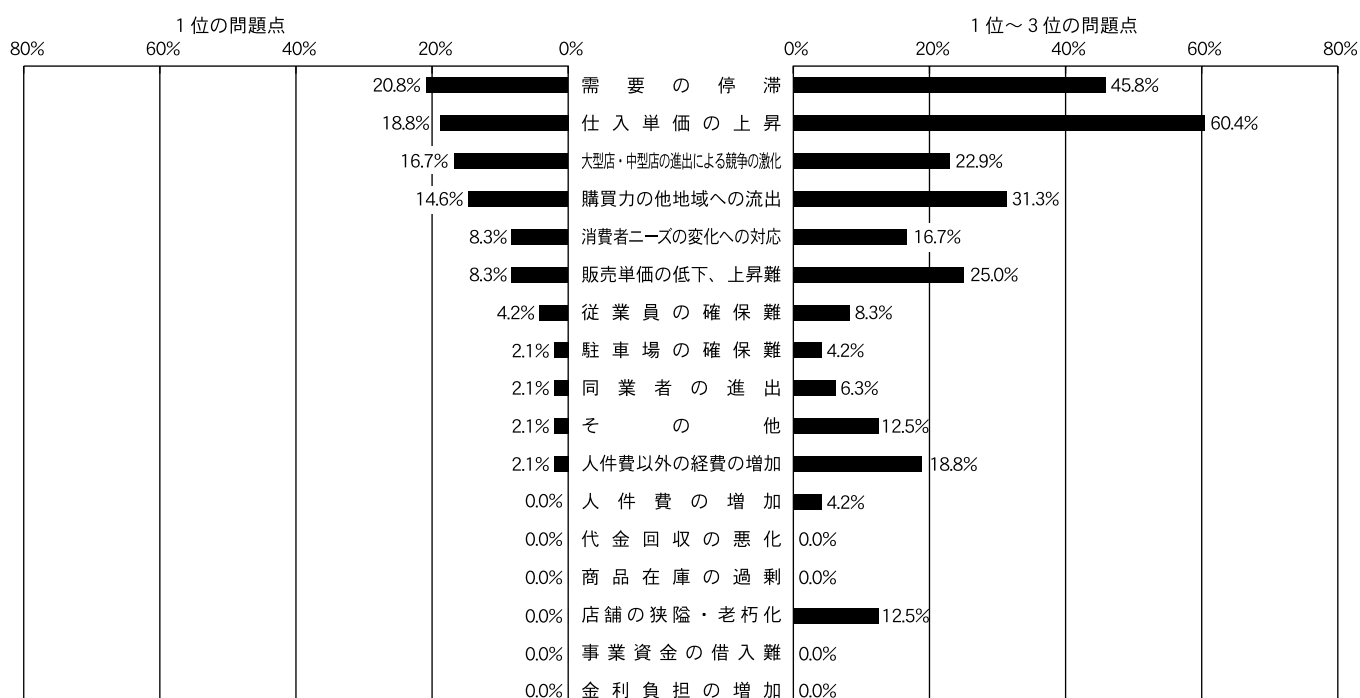
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは「需要の停滞」の20.8%（10社）であり、2番目は「仕入単価の上昇」の18.8%（9社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらにも1番目に多かったのは、「仕入単価の上昇」の60.4%（29社）であり、2番目は「需要の停滞」の45.8%（22社）であった。

山梨県 小売業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0.0
織物・衣服・身の回り品小売業	9	18.0
飲食物品小売業	19	38.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	16	32.0
合計	50	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	46	92.0	38	76.0
3人～5人以下	4	8.0	12	24.0
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100.0	50	100.0

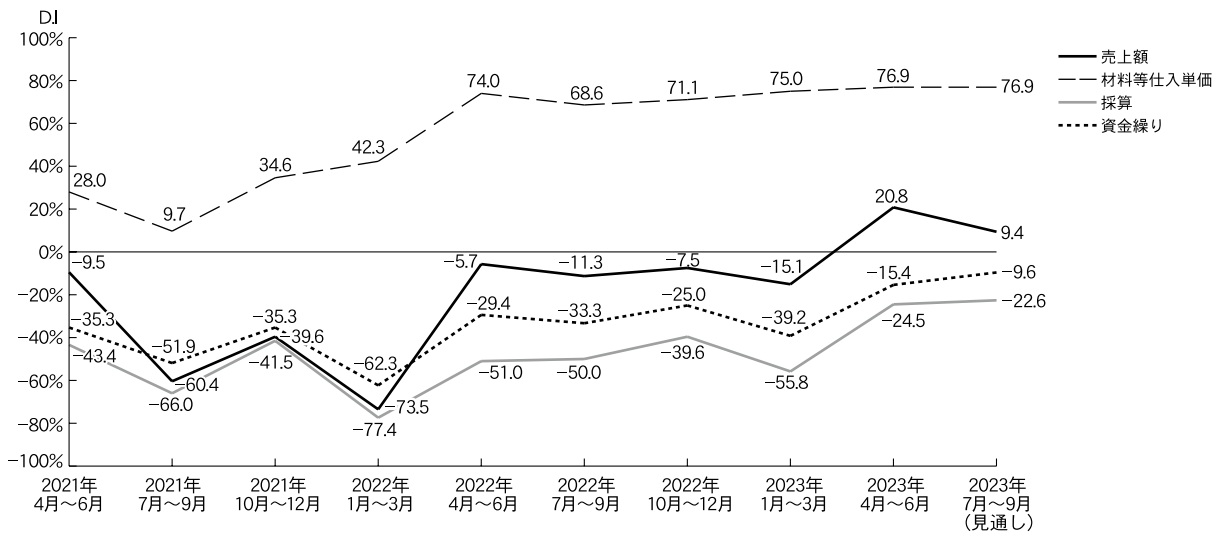
## 5. サービス業の動向

### (1) 景況概観

売上額D Iは、今期20.8と前期比で35.9ポイントの大幅改善を示したが、来期は9.4に悪化の見通し。材料等仕入単価D Iは、今期76.9と前期比で1.9ポイント上昇（悪化）し、来期も76.9で変化なしの見通し。採算D Iは、今期▲24.5と前期比で31.3ポイント大幅改善し、来期も▲22.6へ僅かに改善の見通し。資金繰りD Iも、今期▲15.4と前期比で23.8ポイント改善し、来期も▲9.6へ若干の改善見通しである。

今期は材料等仕入単価D I以外の全てのD Iが改善を示した。来期は売上額D Iが悪化、材料等仕入単価D I変化なし、採算D Iと資金繰りD Iは改善の見通しである。

山梨県 サービス業 主要景況項目の推移－前年同期比－



### (2) 主な項目でみる業況

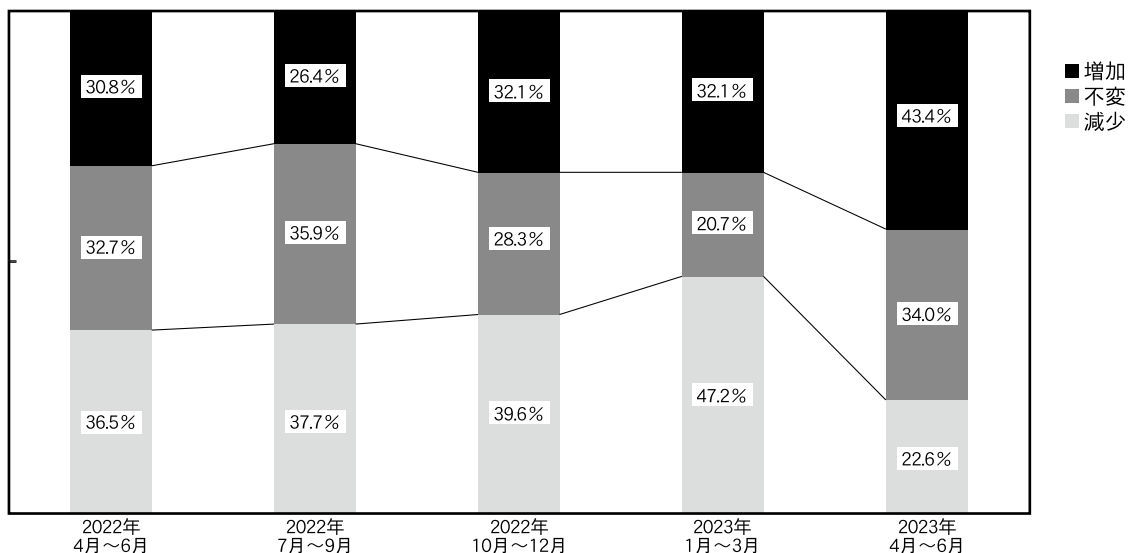
#### ① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数53社））

「増加」と答えた企業の割合は、43.4%（23社）と増加（前期比+6社）している。

「不変」は34.0%（18社）と増加（前期比+7社）、

「減少」は22.6%（12社）と減少（前期比▲13社）している。

山梨県 サービス業 売上額の状況－前年同期比－





② 採算（採算D I の内容（回答企業数53社（前回52社））

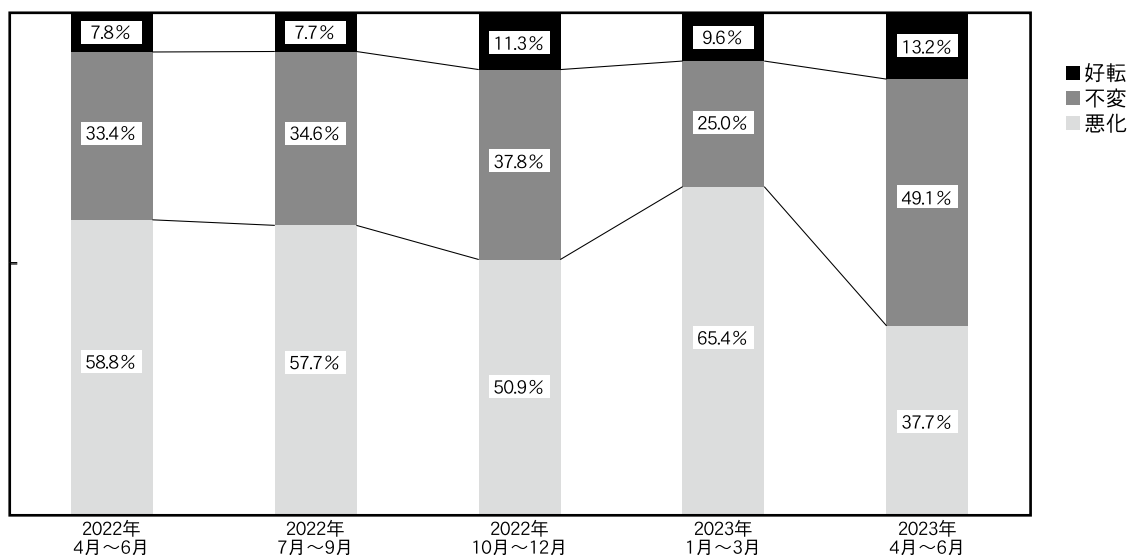
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、13.3%（7社）と増加（前期比+2社）している。

「不変」は49.1%（26社）と増加（前期比+13社）、

「悪化」は37.7%（20社）と減少（前期比▲14社）している。

山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－

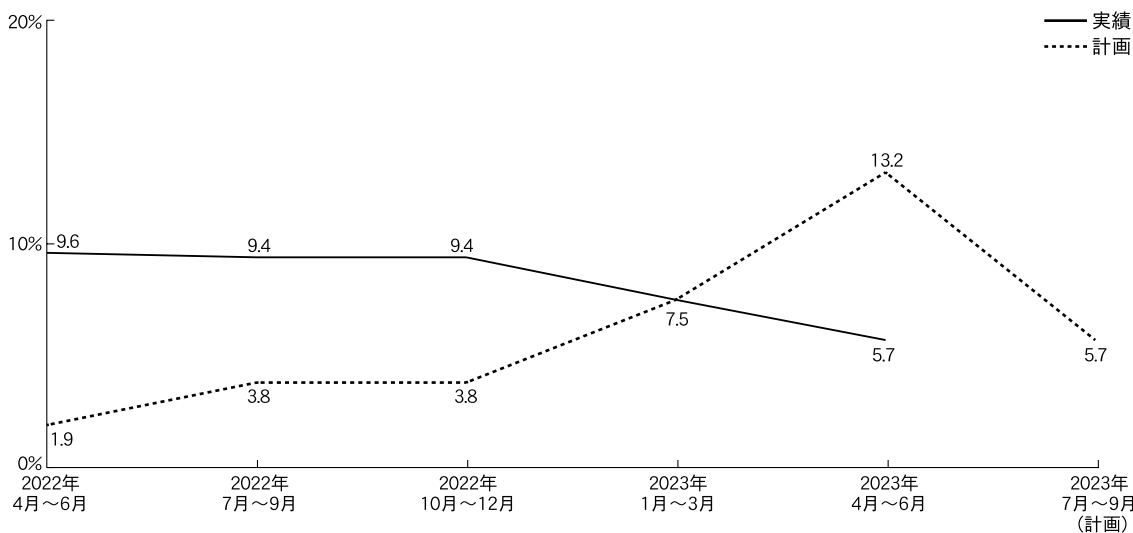


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は5.7%（3社）であった。その設備投資の内容は、「建物」「サービス」「付帯施設」が1件ずつであった。

来期の計画については、同じく5.7%（3社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「付帯施設」が2件、「建物」が1件になる。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

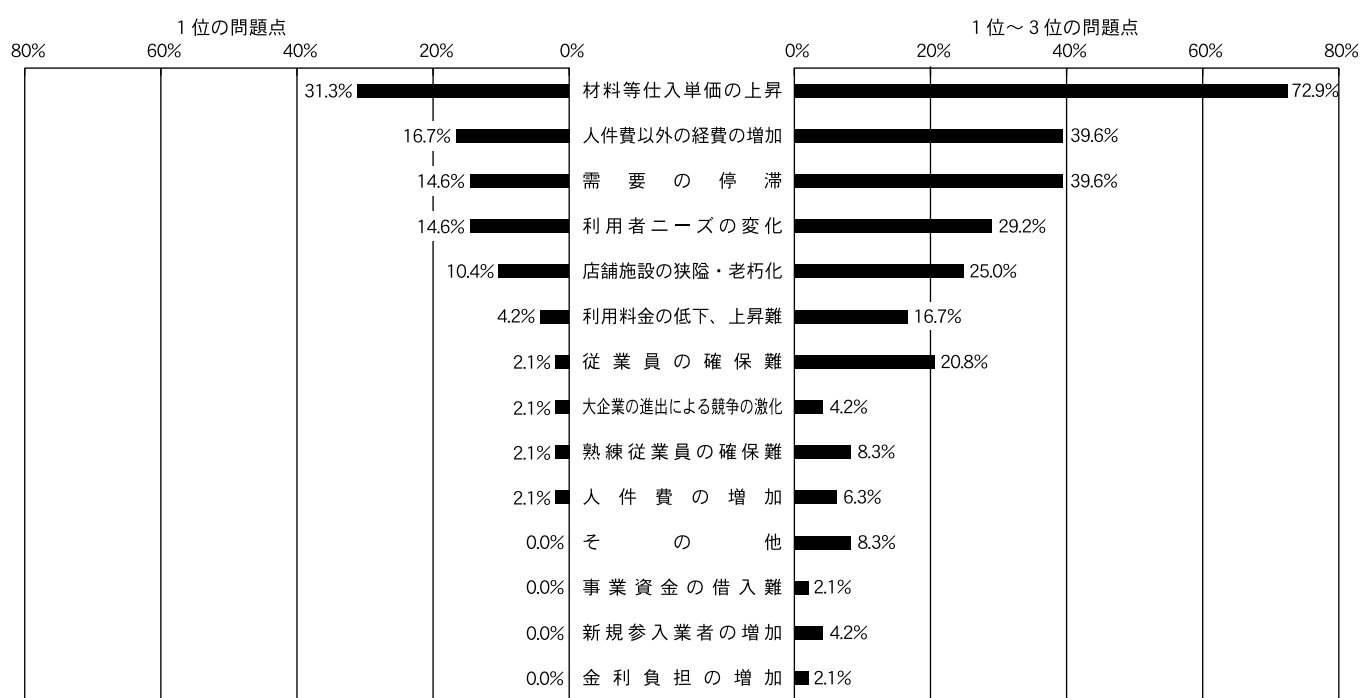
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

前回調査に引き続き1番目に多かったのは、「材料等仕入単価の上昇」の31.3%（15社）であり、2番目は「人件費以外の経費の増加」の16.7%（8社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも1番目に多かったのは、「材料等仕入単価の上昇」の72.9%（35社）であり、2番目は「人件費以外の経費の増加」と「需要の停滞」とが同率の39.6%（19社）であった。

山梨県 サービス業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	35.8
宿泊業	7	13.2
運送業	1	1.9
自動車整備業	4	7.5
洗濯・理美容業	19	35.8
その他のサービス業	3	5.7
合計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	46	86.8	40	75.5
3人～5人以下	7	13.2	12	22.6
6人～10人以下	0	0.0	1	1.9
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	53	100.0	53	100.0